

地域農業の受け皿として地域に根ざした活動を実施

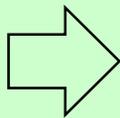
きたしみず

～ 北清水営農組合(千葉県山武郡横芝光町) ～

経営体の概要

組合設立当初：平成12年度
(H10. 7月設立)

基幹作物：大豆
経営面積：6.8ha



現在：令和元年度

基幹作物：水稻(主食用米、飼料用米)、
麦、大豆

作業受託面積： 水稻 21.5ha
麦・大豆 25.8ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成5年度の国営かんがい排水事業と関連事業のほ場整備事業の実施を契機に、地域の土地利用型農業を兼業農家による個別経営から転換することを目的として、平成10年度に本営農組合を設立。現在では、地域農家のほとんどが本営農組合の組合員となり水稻作業を委託している。委託内容は設立当初からの①水稻の収穫・乾燥調製、②麦・大豆ブロックローテーション、③農産物加工に加え、平成19年度以降は地域の要望に応じ田植え等基幹作業を含む④水稻全般の作業受託に取り組んでいる。また、ほ場整備の進展に伴い農地の利用集積が進んでおり、遊休農地の発生を未然に防止している。

営農改善のポイント

① 規模拡大・土地利用調整

国営かんがい排水事業等により用水が管路化され、平成11年度から用水が安定供給されたことにより、受益地の隅々まで用水が行き渡ることを契機に、平成13年度から地域を3ブロックに分け、3年4作(水稻・水稻・麦・大豆)の計画的なブロックローテーションを行っている。農地の集積は年々進んでおり、令和元年度の北清水地区での集積率は70.3%、(R元年度千葉県集積率23.9%)となっている。



汎用コンバインによる小麦の収穫

② 省力化

平成9年度から実施された関連事業の県営ほ場整備事業による大区画化と暗渠排水による乾田化・汎用化が進み、大型機械による農作業の効率化・低コスト化が可能となった結果、田植えや稲刈り作業時間がほ場整備事業実施前と比較して2割程度削減された。

また、用水が管路化され、水管理作業時間も事業実施前と比較すると半分程度で行えるようになり大幅に省力化されている。

本営農組合に作業委託した農家は、それにより生じた時間を有効活用して園芸作物等に取り組んでいる。



加工部会による製造の様子

③ 流通・販売の工夫

平成10年度に設置した加工施設では、生産した米・麦・大豆を原料として、味噌や味噌まんじゅう、豆腐、豆乳などを作り、道の駅やJAの直売所などで販売している。

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業

関係市：香取市、茂原市、東金市外4市6町1村

受益面積：17,970ha

事業期間：平成5年度～平成26年度

事業目的：用水改良、排水改良

主要工事：頭首工1カ所、水門1カ所、揚水機場5カ所、
排水機場1カ所、用水路L=89km、排水路L=6km

位置図(千葉県)



両総地区

<問い合わせ先>

関東農政局
農村振興部農地整備課
電話：048-600-0600
(内線3537)

(令和元年度調査時点)